別紙１

# 地域の教育資源を活用した「総合的な探究の時間」の実践
## ～環境保全を通じた地域の未来を創る人材の育成を目指して～
北海道羽幌高等学校　学級数５　（校長　村田　一平）

### □　実践の概要
本校では、様々な学習活動において探究の過程を意識した学びに向け、探究的な活動の深化に取り組んでいる。また、「地域の未来を創る人材の育成」を目指すべく、羽幌町シーバードフレンドリー推進協議会（高校及び町内の企業及び行政 20 団体が締結。以下「SBF」という。）等と連携した環境保全学習を行っている。

### １　実践の目的
本校は、伝統を生かしながら地域の期待と時代の要請に応える教育を実践するとともに、生徒が地域の課題を発見し、解決に必要な資質・能力を身に付けるために、「総合的な探究の時間」においてSBFや環境省北海道海鳥センター（以下「海鳥センター」という。）、留萌振興局森林室等と連携した、地域・自然を題材とした探究的な学びを継続的に行っており、探究の過程を意識した学びの充実に取り組むことで、「持続可能な地域創生に貢献する人材の育成」に努めている。

### ２　実践内容
#### ⑴　実施計画
本校がある羽幌町は、絶滅危惧種であるオロロン鳥（ウミガラス）含めた世界有数の海鳥生息地を有しており、環境保全と産業振興の両立を目指し、海鳥センター、SBF が認証制度の普及や人材の育成、環境保全活動に取り組んでおり、SBF の構成団体である本校についても連携を図り、地域の環境保全を題材に１学年の「総合的な探究の時間」を実施し、地域の自然環境や地球環境についての興味・関心を高めるとともに、探究の過程に基づく探究的な活動を定着させる。

#### ⑵　取組の具体
環境に関する専門家による講義や、海鳥センターの施設見学、羽幌町ビオトープでの生物調査や樹木調査、海岸でのマイクロプラスチック調査や清掃活動など、多種多様な学びを計画実施し、生徒に地域自然へ関心を持たせ理解を深めさせるとともに、探究の過程を学んでいる。また、探究の過程における整理・分析の技能を深めるよう、生徒の実態に合わせた授業目標及び詳細な計画を立て、各種調査の実施時に数学科や理科、地理歴史・公民科が連携を図った教科横断的な取組も行っている。

【海岸清掃】

令和５年度からは、２学年「総合的な探究の時間」においても SBF と連携し、地域産業における課題に関する探究的な活動とし、より系統性のある探究的な活動へと深化させた。また２学年の修学旅行において、オロロン鳥を飼育している葛西臨海水族園での体験学習を導入し、１学年で行った探究をさらに深めさせている。

#### ⑶　取組後の点検・評価、工夫改善
探究的な活動の成果発表として実施している、校内探究成果発表会におけるグループ発表だけではなく、令和４、５年度は「ジャパンバードフェスティバル」への参加や「全国ユース環境活動発表大会」、「探究チャレンジ留萌・宗谷」の代表として発表する等、各種大会等での発表機会が増加した。また、「つなげ！生物多様性高校生チャレンジシップ 2023」等複数の環境保全に関する大会で発表し、他校や諸団体との交流することで、科学的な探究の方法におけるスキルが向上するとともに、１学年時の探究的な活動から見いだした新たな課題を継続して取り組む生徒も見られるなど、生徒の主体性が育まれ、探究的な活動の持続可能な取組につながっている。

【オンラインでの発表】

#### ⑷　改善後の取組
本取組で身に付けた成果を生かし、地域創生の一端を担う学びに深化させることを目指し、羽幌町議会と連携した「高校生議会」での地域の課題や解決策の提案等、地域創生に貢献する人材の育成に発展させる必要がある。

### ３　実践のポイント
令和４年度探究チャレンジ・北海道出場、令和４年度第８回全国ユース環境活動発表大会北海道代表、海鳥イベント「集えオロロ～ン」発表、2022 ジャパンバードフェスティバル発表、令和５年度つなげ！生物多様性高校生チャレンジシップ 2023 出場など、成果発表の機会が多くある点。